

## 事業名 一級河川空堀川整備事業

からぼりがわ

河川の低水路整備等に住民との新たな合意形成手法を導入し、成功した事業

受賞機関 東京都北多摩北部建設事務所

事業実施期間 平成2年1月26日～平成11年5月30日

事業費 42,000百万円

### 技術等の特徴と評価

本事業は、河川改修事業が管理用通路や低水路整備などの仕上げを残すのみとなった段階で、その後の仕上げを地域住民との合意形成を図りながら進める体制を構築するため、「空堀川通水まつり」を企画し、住民とともに実行した事例である。この「まつり」を進める過程では、住民は自らの発想で企画、自らの手で創り上げ、行政はそれを調整・支援する役割に徹した結果、わずか2カ月の準備期間にもかかわらず、参加者1万人を数えるイベントを実現させたことが評価される。本事例及び今後の取り組みの分析を通じて、河川行政に係る住民参加方策について有用な知見が得られるものと期待される。

### 事業の概要と効果

平成9年の河川法改正を契機として、建設省では「多摩川流域懇談会」等に見られるような「市民と河川行政の新しい係わり」を模索しており、東京都も同様に知事管理河川で「流域連絡会」を発足させた。市民もまた、行政の新たな対応に呼応する形で、新しい活動を模索している。

こうした状況の中で、都知事管理の一級河川空堀川の東村山市内約1kmの水害常襲地帯が10年を経て改修が進められ、仕上げの段階である管理用通路や低水路整備について、この事業では以下の手順で、地域住民との合意形成を図りながら仕上げていくことにした。

- ・管理用通路などは、一端開放し、使い勝手を見た上で仕上げ工事を実施する。
- ・低水路整備は、当初は定規断面を土羽で整形するのみに留め、その後数年かけて流水による浸食状況などを把握しながら、その流況に最も敵した形に仕上げていく。
- ・この間、地域と行政が一体となって意見交換を行いながら仕上がり形態を模索していく。

この手法を成功させるためには、地域と行政とが情報



位置図



高水路で水と戯れる子供たち

交換を密にし、深い信頼関係を形成することが必須条件となることから、河川をめぐる「地域と行政の新たな関係」構築のために『空堀川通水まつり』を地域に提案することにした。この「まつり」では、「行政は、新しく安全で安心できる「器」を造った」、「この空間は、地域のかげがえのない財産である」、「これからは、地域の人たちと行政が一体となってこれを育て、次代に受け継いでいかなければならない」という川づくりの考え方を地域に訴えかけた。

この「まつり」では、当所と東村山市が“呼び掛け人”となり、自治会、町内会、環境保護団体等をはじめ、幅広く参加を呼び掛けた。進行は地元と行政が中心となり、シナリオづくりから準備・運営まで、全てにわたり協働で実施した。

その結果、短い準備期間（2カ月）で、参加者1万人ものイベントにすることができた。

受賞賛助会員 鹿島建設(株)東京支店